伸びる教育…伸びる子ども…伸びる郷土

急激に進む学校の新増改築

あすへの人づくり

真剣なまなざしで、一生懸命なにかを作つている子どもたち―。

この子どもたちが、やがてあすの留萌を作る人たちとなる。

〝伸びる教育…伸びる子ども…伸びる郷土〟と題して、学校教育の一面をとらえてみました。

市内幌糠町から五・八キロの山奥に、中幌糠という農村がある。

そこに住む二十四人の小学校に通う子どもたちに、一人につき約十八万円ものプレゼントがあつた。

といつてもこれは本当の話。

中幌小学校が改築され、古い校舎のすぐ側にりつぱな校舎ができたのです。

小学校一年から六年生まで全部あわせて二十四人。

この校舎にかかつた工事費四百三十一万七千円といいますから、生徒一人につき十八万円もの工事費というわけです。

教育とは、お[illegible]かかるもの一みなさまのお宅でもそうお考え[illegible]ようが、市内に小学校十三校中学校五校を持つ市でも、同じことです。

しかし、将来の郷土を背負うのは子どもたちです。

この人づくり[illegible]、市政にとつて忘れることのできない大事なことなのです。

市では、行政の重点に教育をとり上げていますとくに、三十八年度には都心から遠くはなれた地域の学校教育施設を早急に充実することを目標に行政を進めています。

これは、同じ留萌に住みながら、学校によつて受けられる教育に差があつてはならないと、いままでとかく遅くれていたこれらの地域の学校施設の整備充実を急いでいるわけです。

三十八年度は、こうしたことから、中幌糠小の校舎改築、同小屋内運動場新築、給食室新築等をはじめ、豊平小の増築、三泊小の屋内運動場改築給食室新築、港北小の校舎改築などが進められました。

これは、危険な校舎の改善という点からも行われているわけですが、教室数の増加などにもあわせて行われ、いままでみられたような、すし詰め学級という不正常授業は、全市的に完全に解消されたことになりました。

また、最近の教育には、理科教育の充実という点から特別教室の増築が進められています。

三十八年度には、港南中、北光中、留中でそれぞれ特別教室が増築されました。

このほか、三十八年度は教員住宅の確保のため校長住宅の新築などが行い[illegible]この一年間に、学校建設などに使われたお金は、総額四千九百五十八万九千円にのぼつています。

〝留萌に来てまず驚いたのは、リッパな学校が次々に出来て行くことだ〟最近留萌を訪れた人がいつています。

学校教育は、これでよいということはありません。

市では、この子どもたちに夢をたくして、毎年多くの市費を投じています。―そこに、あすの留萌を背負う健全な子どもたちが成長して行く姿があるからです。

港北小学校も近代的な校舎に

43世帯の部落にもリッパな校舎のプレゼント

教育の充実に特別教室が

建築の粋を集めた北光中光中屋体